

豊議議第544号  
令和4年(2022年)12月15日

豊中市議会議長  
花井慶太様

文教常任委員会

委員長	大町裕次
副委員長	酒井哲也
委員	沢村美香
委員	中川隆弘
委員	中野宏基
委員	高木公香
委員	五十川和洋
委員	中島紳一

文教常任委員会視察調査報告書

次のとおり、視察調査の結果を報告致します。

記

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 1. 日 時                 | ○ 令和4年10月4日(火)                               |
| 2. 調査都市<br>及び調査内容      | ○ 東京都武蔵野市<br>武蔵野市立ひと・まち・情報創造館<br>武蔵野プレイスについて |
| 3. 調査結果<br>の概要及び<br>意見 | ○ 別紙   |

## 調査結果の概要及び意見

## 東京都武蔵野市 ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスについて

## (1) 視察の目的

武蔵野市では、平成23年7月に、図書館をはじめとして生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の機能を併せもった施設、「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」を開館した。豊中市でも令和3年2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、今後の図書館の役割や（仮称）中央図書館を中心とした新たなサービス網の構築とサービスの在り方、同館の機能・規模・エリアなどのイメージを明らかにし、取組を進めているところであり、今後の施策の参考とすることを目的とする。

## (2) 武蔵野プレイスの設立の経過と取組内容

## 1. 経過

武蔵野市では、平成10年に武蔵境駅南口駅前に広がる農水省食糧倉庫跡地の取得を完了し、平成11年に武蔵境駅周辺地区を「駅を中心とした賑わいある生活拠点」として整備することを目的とした「武蔵野市中心市街地活性化基本計画」を策定した。平成16年に「武蔵境新公共施設設計プロポーザル」を実施し、設計候補者1者を選考した。また、平成18年に「武蔵野プレイス（仮称）専門家会議」を設置し、平成20年には「武蔵野プレイス管理運営基本方針」を策定し、それに基づき、利用者の役に立つ施設を目指すことを基本に事業やサービスを展開していく上での具体的な目標等を記載した「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス管理運営指針」を策定し、平成23年7月に開館した。

## 2. 施設の概要・取組内容

武蔵野プレイスは、図書館、生涯学習支援、青少年活動支援、市民活動支援の4つの機能が融合された施設として、図書や活動を通して、人と人が出会い、それぞれが持っている情報を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指し、さまざまな事業等に取り組んでいる。また駅前に位置することや、公園が隣接しているといった立地条件を生かし、公園との一体的な取組を進める中で、まち全体の活性化を目指している。

図書館機能としては、さまざまなライフステージに対応した、回遊性に富んだ滞在型の図書館として図書フロアが分散配置されている。また、武蔵野市立図書館の分館として、令和3年度実績では185,964冊を所蔵している。

(別紙)

建物は、全体的に角がなく丸味のあるデザインで統一されており、吹き抜けをつくることで下層の音が上層に届き、また吹き抜けや窓から自然光を採り込む構造になっている。また階層ごとにテーマが設けられている。

具体的には、地下2階は、ティーンズスタジオとして青少年が気軽に利用できるフリースペースや楽器演奏ができる防音スペース、運動設備、調理やものづくりができるスタジオ等があり、青少年向けの図書コーナーが配置されている。現在はコロナ禍で使用できない場所もあるが、青少年が気軽に集える場として活用されている。地下1階は、メインライブラリーとして本に囲まれた静かな空間となっており、インターネットで情報検索のできるパソコン利用席等がある。1階は、パークラウンジとしてエントランス階となっており、予約者自身で図書を貸出できるコーナーや、図書の持ち込み可能なカフェ、新聞や雑誌の最新号が並ぶマガジンラウンジ等が配置されている。2階は、コミュニケーションライブラリーとして、生活に関連した図書をテーマごとにまとめたテーマライブラリーや、児童向け図書をまとめたこどもライブラリー、おはなしのへや等が配置され、親子や家族で過ごせる空間になっている。3階は、ワークラウンジとして市民活動団体の活動場所や、会議室、個人で読書や調べものができるスタディコーナー等がある。4階は、ワークテラスとして屋上庭園や最大150人収容可能なフォーラム、有料で利用できるワーキングデスクが配置されている。

また、武蔵野プレイスに隣接し、一体的に整備された境南ふれあい広場公園では、約2000㎡の規模や駅前の立地を生かし、マルシェなどのさまざまなイベントが行われており、協働した取組によってまち全体の活性化を進めている。

### (3) 各委員の所感

○ この施設は農水省の国有地の払い下げを受け、平成23年に複合施設として開設された。多くの方から、学習、研究、活動、ふれあい集える施設として評価され、駅前の立地もあり、年間利用者は開設から5年で1000万人を超えている。カフェでは図書の持ち込みが可能で食事もできる、午後8時まで図書の貸出しができる等工夫されていることが分かり参考になった。

○ 平日の昼間にもかかわらず、若い世代から高齢者世代まで来館者が多いことにとっても驚いた。駅前で公園もあわせてのコンセプトなので、図書館機能としてとても来館しやすいイメージを感じた。まちの活性化の効果をお聞きしたが、時間の関係でデータまではお聞きできなかったが確実に効果が出ているとの説明に納得した。

○ 図書館を中心に学習や活動など複合的機能が備わることで、交流や居場所として多世代の多くの利用につながる事例にて学ぶことができた。特に、

(別紙)

吹き抜けにより一階カフェからの「生活の音」が程良く響き、こどもが居やすい環境づくりにも配慮されているなど、多世代型コミュニティスペースとしての工夫は大いに参考となった。

○ 武蔵野プレイスは図書館をはじめとした複合機能施設であり、11年経った今、平日にもかかわらず多くの市民が利用している。複合施設の強みを生かした多様な人が参加できる快適な空間と言える。豊中市の(仮称)中央図書館基本構想は、快適な空間、楽しい空間を交えた構想でなくてはならない。また地域、大学、民間企業との連携は非常に大きな役割を担うと思う。

○ 武蔵野プレイスはオープンから11年経った今でも建物自体のデザインが曲線を多く使ったユニークなデザインである事から、新鮮さを感じ平日にもかかわらず多くの方々が利用されていた事が印象的でした。カフェスペースにも本を持ち出せる点は庄内コラボセンターでも採用して頂きたいと思う。

○ 駅から非常に近く、緑豊かで、館内に光が差し込むと、とても清々しく居心地の良さを感じる施設であった。また、市民活動、趣味の実践、生涯学習、自習やワーキングスペース、会議、イベント開催などの多様なニーズに応える施設内の種類の豊富さも要因となり、来館者の多さに結びついている点も、参考にさせて頂きたい。

○ 視察した施設は、どのフロアになにがあるのか、少々わかりにくい。卓球・ボルダリング・ダンススタジオまで併設されているのは疑問で、図書館メインにするなら静かな環境の方がいい。建物と施設内の曲線・曲面構成も、館長さんの「使い勝手がよくない」という説明のとおり、「見栄え」頼みの設計に疑問を感じた。

○ 百聞は一見に如かず、図書館の館長さんに館内を案内していただきました。多くの質問項目もありましたが、館内を回りながら説明され、平日にもかかわらず利用者が多く、コロナ禍の中の対応、コロナ以前の子どもたちの図書館の利用についても詳しく説明していただきました。有意義で貴重な視察でした。